

地域の買い物支援だけでなく交流づくりにもつなげる

細野さくら商店が移動販売車の運行を始める

5月23日、細野まちづくり協議会（内村文彦会長）が運営する、細野さくら商店の移動販売車の運行が始まりました。同商店は細野地区で地域のスーパーや商店などが相次いで閉店したことに對し、交通手段のない高齢者らの買い物支援を行うため、同協議会が今年1月に開店したもの。商店オープン後、利用者から移動販売車の運行を希望する声が高まり、今回の運行につながりました。

当日は出発式が開催され、地域住民ら約50人



が見守る中、移動販売車両の紹介や運行開始を祝うテープカットが行われた後、実際に3地区の公民館で移動販売車を使った販売がありました。

同日、竹山公民館で移動販売車を利用した橋元茂子さん（90）は、「普段は食べるものや日用品は配達をお願いしている。こうして移動販売をしてくれると、実際に商品を直接手に取って選べるのが楽しく、地域の人たちと顔を合わせて交流できるのもうれしい」と喜びました。

今後、移動販売車は毎週土曜日に地区内を巡回する予定で、同協議会では、利用者のニーズを見ながら販売エリアの拡大を目指すほか、商品の入れ替えなどを適宜行っています。



移動販売で使用する車両には冷蔵庫を備え、生鮮食品や手作り総菜、日用品など約500品目を積載し、地区の公民館などを訪問します



◀細野さくら商店の公式 Instagram では、営業日の案内や販売商品の紹介などを行っています

牛乳・乳製品の消費拡大を目指して

酪農部会が市内産牛乳&生乳スイーツで酪農の魅力を発信！

6月3日、こばやし地区酪農部会（加藤教昭会長）が「父の日に「牛乳」を贈ろう！キャンペーン」として、市役所で酪農への理解醸成イベントを行いました。このイベントは、6月1日の「世界牛乳の日」と6月21日の「父の日」に合わせ、牛乳・乳製品の消費拡大と酪農への理解を深めることを目的に実施されたもの。

会場では、県内で高い乳質を誇る市内酪農家の牛乳の振る舞いや、同じく市内酪農家の生乳を



使った生ドーナツやプリンを販売。多くの市民らが訪れ、商品を買って求めています。

同部会の永田一喜副会長は「牛乳は栄養補給だけでなく、水分やミネラルも補給できるため熱中症対策にも役立つ。多くの人に牛乳の大切さとおいしさを知ってもらいたい」と話しました。



Photo 1 販売会の完売を祝い、市職員と部会員らで牛乳で乾杯 2 当日振る舞われた牛乳。特製パッケージで牛乳の魅力を発信 3 多くのお客さんでにぎわった会場 4 販売会開催前に、市長に表敬訪問し牛乳の魅力を PR